

地域経済を考える挑戦者が集結 人吉会議2025

市では、地域経済を豊かにするために事業の成長を目指すビジネスイベント「人吉会議2025」を2月18日にくまろで開催しました。

本市に拠点を置くIT企業・株式会社システムフォレスト代表取締役の富山孝治さんが「成長する地域企業の場合」と題して講演。「既存事業の常識を見直すなど変化することが大切」と呼び掛けました。市内外の経営者が登壇したパネル討論もあり、「事業継承は新しい客層を見がけも大事」といった意見が出されていました。



県内外から事業拡大や起業を考える約60人が参加

鍛冶屋町通りが怪しい世界に 妖怪祭り

人吉球磨に残る妖怪文化を生きかした交流の場を作ろうと、鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会では、3月15日に「妖怪まつり」を開催しました。

会場はメイクや仮装で妖怪に扮した人たちにぎわい、「きつねの嫁入り行列」や妖怪盆踊りなど不可思議な妖怪の世界を楽しんでいました。『ゲゲゲの鬼太郎』をモチーフにした妖怪カレーも振る舞われ、用意した2百食を完売するなど好評。人吉東小1年の紫安隆元君は、「御朱印集めとお面作りが楽しかった」と話していました。



鍛冶屋町通りには約千人の妖怪ファンや家族連れが訪れた

高原に春を呼ぶ炎、大地焦がす 田野高原野焼き

田野高原（田野町）の野焼きが3月9日に行われ、オレンジ色の炎が冬枯れの大地を真っ黒に焦がしました。田野高原の草原を保全するための春の恒例行事で、地域住民、ボランティア、消防団など約70人が参加。

枯草に着火すると炎は音を立てながら燃え広がります。2時間ほどで約23ヘクタールの草原を焼き尽くしました。芦北町から写真を撮りに来たという男性は「阿蘇以外に県内で野焼きが見られるのは珍しい。これからは続けてほしい」と話していました。



パチパチと音を立てて燃え広がる炎

子どもとメディアの接し方を学ぶ 子育て講演会

市では、子どもとスマートフォンなどのメディアの付き合い方や、子どもとのふれあい遊びなどを学ぶ「子育て講演会」を3月17日に市保健センターで開催しました。

NPO法人子どもとメディア事務局長の黒田可奈子さんを講師に迎え、子どもとメディアの関わり方をテーマに講演。黒田さんは子どもが上手くメディアと付き合うためのルール作りについて話し、「子どもに絶対守られるルールを決めてもらい、守れたら必ず褒めて」と呼び掛けました。



子育て中の親や保育士など約30人が参加

● 御溝川二次放水路が完成しました ●

球磨郡山江村の万江川から分かれ市の中心部を南北に流れる一級河川・御溝川は、川幅が狭く水深も浅いことから、増水時には瓦屋町や城本町などで道路の冠水や住宅の浸水が多発しています。県では、住民の安全安心を確保するため、増水時など御溝川の水が市街地に流入する前に、万江川に放流することを目的として、1,300mの二次放水路を計画。合ノ原町の御溝川から上林町の万江川に洪水を流す二次放水路が完成しました。

3月8日に完成式を東西コミセンで開催し、地権者などの地元住民をはじめ、国・県・市の関係者、施工業者など約70人が参加。木村知事や来賓のあいさつ後、県から工事の概要を報告。松岡市長は「水害の常襲地帯だった地域の生活環境が改善したことは大きな成果。これからは国・県などと連携・協力し、減災・防災に努めていく」とあいさつしました。

二次放水路は4月から運用を開始します。

※放水路とは……河川の途中に新しい川を分岐して掘り、増水時などにほかの河川に放流する水路

二次放水路ができるまで

平成14年 | 事業に着手し用地交渉や調査設計を進めるも、合意形成に時間がかかる

平成31年 | 住民の合意を得て、用地買収後、工事に着手

令和3年 | 同事業を緑の流域治水プロジェクトに位置付け。国の国土強靱化の予算もあり事業加速

令和7年 | 二次放水路完成



第一市民運動広場近くに水門を設置。万江川へ放流



全長1300m、幅4m、深さ4～5mで放水量は毎秒28ト



山江川と御溝川の合流地点に水門を設置



完成式では、国・県・市の関係者がくす玉を割り完成を祝った

問合せ 市道路河川課建設係 (☎22-2111 内線2244)